

70年代日本政治外交史の一級史料

大平正芳記念財団旧蔵

オンライン版

大平正芳関係文書

編集：小池 聖一 広島大学教授、福永 文夫 獨協大学教授



第 68・69 代内閣総理大臣をつとめた大平正芳（1910～1980）が残した膨大な文書群。大平正芳自筆の日記・手帳から、書簡、外務省や通産省などの官庁資料、国会答弁・演説用の原稿、選挙関係資料、さらには大平の回想録執筆にあたって行われた政財官の重要人物へのインタビュー記録など、膨大かつ多様な原史料で構成された、まさに戦後政治史の一級史料群。

出版・発売元：丸善雄松堂株式会社

宰相大平正芳の実像を映し出す重要資料

成蹊大学教授 井上 正也

大平正芳への評価が近年とみに高まっている。それは大平の政治家としての経緯や国際的視野を再評価する以上に、安倍政権への対抗軸となりえる自民党の「リベラル保守」の理想を大平に仮託する流れにも後押しされているように思える。

しかし、我々は政治家・大平正芳を果たしてどこまで知っているだろうか。「保守本流」や「リベラル保守」なる多義的な言葉に込められた政治理念を一身に背負わされた大平も、宏池会の祭司であった伊藤昌哉が『自民党戦国史』で描き出した権力亡者の大平も事実の一片を語っているに過ぎない。生前大平はローマ神話の二つの顔を持つヤヌス神を例え話に好んで用いた。彼自身もまた、郷土を愛し、読書を何より好んだ文人政治家の顔と、自民党での果てなき派閥闘争を戦う権力者の顔を具有するヤヌスであった。大平の実像を理解するためには、我々はこのヤヌスの二つの横顔を知らねばならない。

今回リリースされた「大平正芳関係文書」は、大平が志半ばでの死を遂げた後、香川県観音寺市の大平正芳記念館に保管されてきた第一級の史料である。三角大福の熾烈な権力闘争を戦い抜いた宰相の私文書を、我々は高

画質のデジタル画像で手にとれるようになった。それらは大平の足跡を記した日程表に加え、地元や選挙関係から行政改革、日米関係・日中関係といった外交問題まで多岐に及んでいる。

注目すべきは、大平没後に伝記編纂のために収集された浩瀚な資料であろう。関係者への膨大なインタビュー記録は、同時代に公表するには生々し過ぎたゆえに『大平正芳回想録』に採録されなかった証言が多く含まれている。これらは研究者には知られていない事実も多くあり、将来の大平研究には欠かせない貴重な素材である。「大平正芳関係文書」は、大平の人物研究にとどまらず、1970年代の日本政治外交史を理解するためにも不可欠の史料といえよう。



「竹下氏インタビュー原稿」

大平正芳の複眼的思考 — 「楯円の思想」から大平研究会まで

東京大学教授 宇野 重規

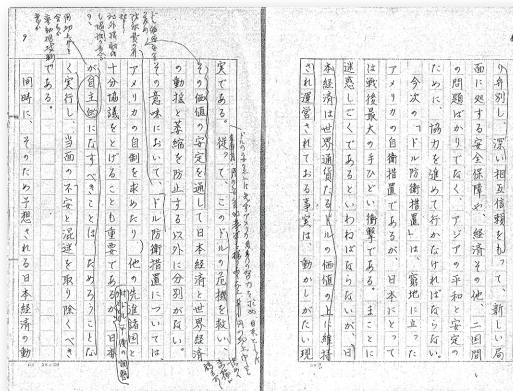
大平正芳は、今日あらためて真剣に再検討すべき戦後日本の政治家の一人である。たしかに首相として政権を担った期間は長くない。彼が首相になるにあたって、自らの政策のみならず、拠って立つべき思想と歴史観を練った時間を思うと、彼が官邸にいた期間はあまりに短かった。とはいえ、文人であった大平は自らの手で多くの文章を残している。卒業論文のテーマにトマス・アクィナスの協同体思想を選び、大蔵省に入ってから仲間とともに勉強会を開き、ケインズの『貨幣論』などを読み込んだ大平の学問的蓄積は深い。

大平の思想を一言で表現すれば、「楯円の思想」になるであろう。世の中の重要な事柄は、必ずしも一つの同心円に収まらない。むしろ二つの競合する価値を、いかに両立させていくかにこそ、英知は求められる。彼は官僚時代から自由と秩序、政府の課税権と納税者の権利を考え続けた。後年、政治家になってからも現在ばかりを考えるのではなく、「過去と未来」の両方を踏まえることが「健全な保守」の要件であると述べている。わかりやすい言葉、一刀両断に物事を断じる言葉ばかりが目立つ今日、「鈍牛」とも呼ばれた大平の、粘り強い複眼的思考の意義は高まるばかりである。

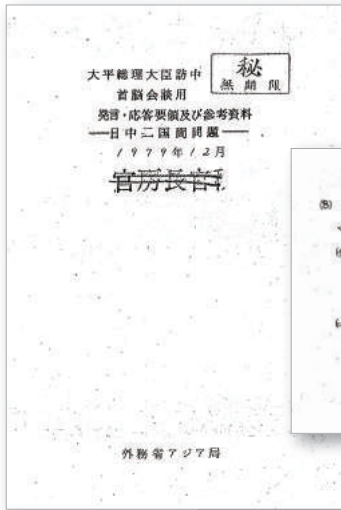
大平は吉田茂以来の自民党の保守本流を継承するのみならず、自ら若手の知識人と官僚を糾合して政策研究会を結成した。そこで取り上げた「田園都市」「環太

平洋連帯」「文化の時代」といったテーマは、今なお日本にとって重要な課題であり続けている。経済成長以降の日本社会にとって目指すべき価値は何か、いかに文化的価値を人間に取り戻すか、そして都市と地域コミュニティの両立は可能か。研究会に出席することはもちろん、メンバーの人選や課題設定にまで気を配った大平の思いは深かった。

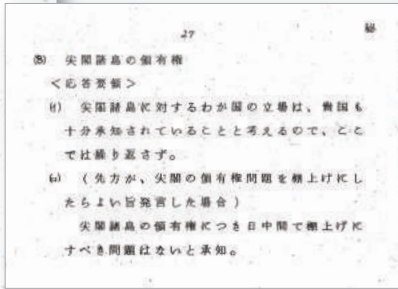
今回のオンライン版では、大平の手による著作の原稿・草稿類も多数収録されていると聞く。大平正芳関係文書をオンラインで読むことができるようになったのを機に、大平の残した政治的・思想的考察を、あらためてじっくり読み直してみたい。



「秘 潮の流れを変えよう（未定稿）」

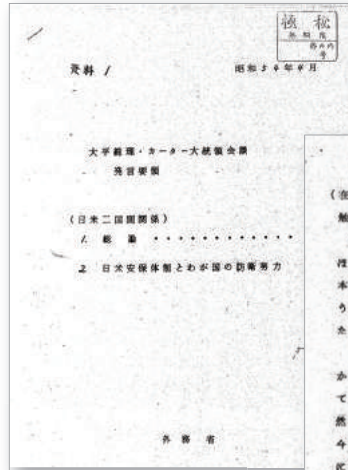


日中関係

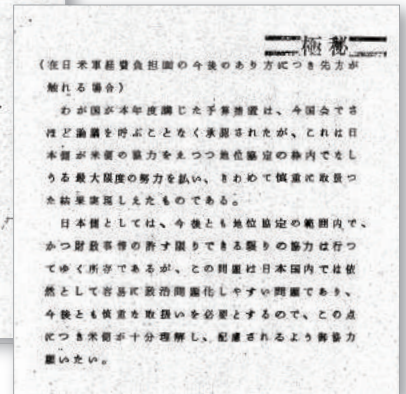


「大平総理大臣訪中首脳会談用 発言・応答要領及び参考資料」 (外務省アジア局)

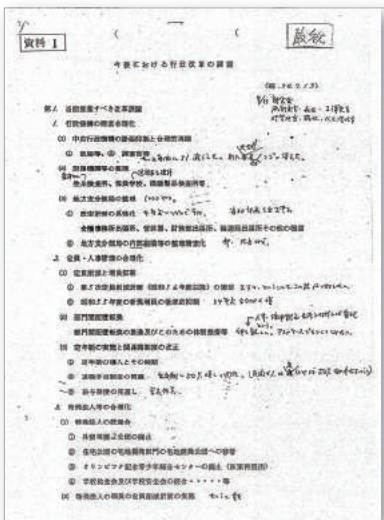
日米関係



「大平総理・カーター大統領 会談発言要領」(外務省)

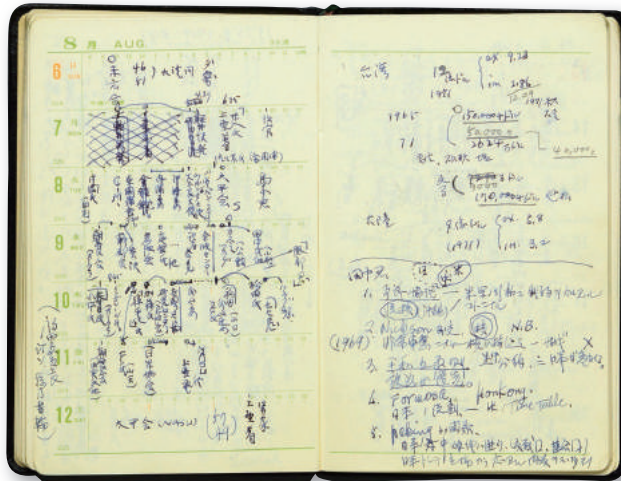


行政改革



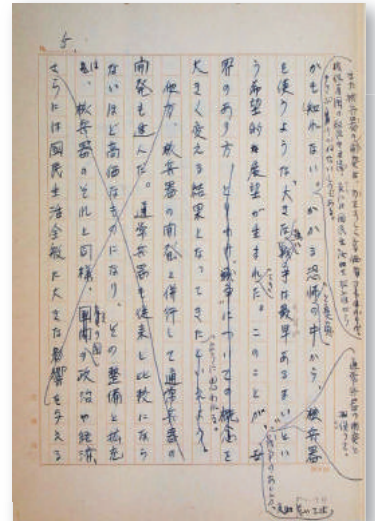
「今後における行政改革の課題」

大平正芳日記・手帳



「大平正芳手帳 1972」

大平正芳原稿・草稿



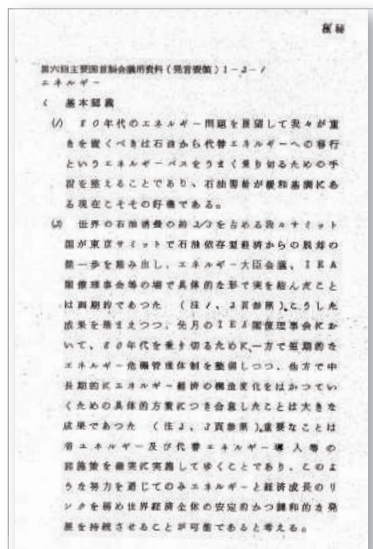
「日本の新しい外交」草稿

インタビュー資料



「中曽根康弘氏インタビュー」

東京サミット、ヴェネチア・サミット



「第六回主要国首脳会議用資料 (発言要領)」

「楠田實資料 (佐藤栄作官邸文書)」と 横断検索が可能

オンライン版

大平正芳関係文書

戦前の興亜院時代から、戦後、池田内閣の外務大臣期 (1962~1964)、佐藤内閣の通産大臣期 (1968~1970)、田中内閣の外務大臣期 (1972~1974)、三木内閣の大蔵大臣期 (1974~1976)、そして自身の内閣総理大臣期 (1978~1980) に至るまで、大平の生涯に沿って貴重な資料を収録。鈴木政権期 (1980~1982) の取材メモなど大平死去後の資料も含む。

「近現代政治外交史データベース」のコンテンツとして、2016年に刊行された「オンライン版 楠田實資料 (佐藤栄作官邸文書)」と横断検索が可能である。

大平正芳記念財団旧蔵

オンライン版 大平正芳関係文書

編集：小池 聖一 広島大学教授、福永 文夫 獨協大学教授

価格 ¥400,000 (税別)

プラットフォーム：J-DAC ジャパン デジタル アーカイブズ センター
完全買切型（ご購入後のプラットフォーム利用料、年間維持費用は不要です）

収録内容

週間日程・日誌

大平事務所日誌・日程関係

大平正芳書簡

伝記資料及び草稿

書類

瀬戸大橋関係

解散問題

東京サミット

大平総理会合資料

特別国会所信表明

政治資金疑惑再発防止

社公民連合政権構想

内閣不信任、記者会見関係

訪米等関係

第 87 国会施政方針演説作成資料

第 88 国会施政方針演説作成資料

第 91 国会施政方針演説作成資料

行政改革

中国出張

訪米発言要領関係

大平首相對談関係

大平事務所書類

選挙関係

インタビュー関係

外務大臣期

大平大臣会見 1972 年

大平大臣懇談 1972 年 7 月～ 12 月

大平大臣会見 1973 年 1 月～ 12 月

大平大臣懇談 1973 年 1 月～ 12 月

大臣訪中 1974 年 1 月

大臣懇談 1974 年 1 月～ 12 月

大平大臣会見 1974 年 1 月～ 12 月

大平事務所作成ファイル

覚書・硯滴

大平正芳日記、ノート

好評発売中

「大平正芳関係文書」と横断検索可能

オンライン版 楠田實資料（佐藤栄作官邸文書）

編集：和田 純（神田外語大学教授） 全 2 部 価格 ¥800,000 (税別)

戦後最長の佐藤栄作政権（在任期間：1964～1972）を支えた首席秘書官楠田実（1924～2003）が残した、未公開官邸資料。外交から内政まで第一級の極秘資料で構成される事実上の「佐藤栄作文書」。四千点を超える一大コレクションであり、今後戦後史を語るうえで不可欠な基本史料である。

 **MARUZEN-YUSHODO**

丸善雄松堂株式会社 学術情報ソリューション事業部 研究支援コンテンツ開発部

〒105-0022 東京都港区海岸 1-9-18 国際浜松町ビル

TEL.03-6367-6025 FAX.03-6367-6188 e-mail archives@maruzen.co.jp